

銘柄分析レポート：ジャパニーズドリーム

1 はじめに

今回の銘柄分析レポートは、逆境の中で生活のためにトラック1台で運送業を始め、株式上場企業となった2社を取り上げます。

1人目の創業者は農家の生まれでした。小学生の頃、母親が結核で入院しているにもかかわらず、毎晩お酒を飲んでいる父親の姿を見て、子供ながらに反発心をいただきます。

自分はしっかり稼げる人間になろうと決意し、中学校入学と同時に地元の青果市場でアルバイトを始めました。高校には進学せず、青果商の元で修業し、19歳で千葉県に自分の店を開業します。

21歳で東京にも出店し、商売は繁盛していました。ところが24歳の時、保証人を引き受けた方が、交通事故で亡くなる悲運に見舞われます。店舗を失い、残ったトラック1台で運送業を始めました。やがて法人化し、その会社は2014年に上場を果たしました。

2人目の創業者は、祖父が創業した運用業を、父親が経営に失敗して、清算を余儀なくされました。

生活の糧を得るために働き口を探していたとき、父親の縁で鶏肉業者より「軽トラ1台で鶏肉のルートセールスをしないか。手取り15万以上は約束する」とすすめられます。

鶏肉を軽トラで運び配達先で注文を聞く御用聞きでしたが、一生懸命に働き、気がつけばトラック20台になっていました。やがて法人化し、その会社は2020年に上場を果たしました。

もしこの2社がIT業界の企業であれば、社長の写真がビジネス誌の表紙を飾って、サクセスストーリーとして取り上げられたかもしれません。

地味な泥臭い業界で目立たないものの、個人的にはジャパニーズドリームに該当すると思っています。

もちろん、この手の会社は投資対象としても有望です。創業者社長がハングリー精神とベンチャースピリットにあふれているからです。それでは、どのような会社なのか、次ページから見ていきましょう。